



会員
その他サポート
募集中!

アーツアライブは、以下の形でのサポートを募集しています。

会員として活動を応援する

一般会員 年会費 3,000円（一口以上）

《会員特典》アーツアライブの各種プロジェクトへの招待、ウェブニュースレターの送付。
10口以上お申し込みの会員には、会員特別セミナーや作家との交流会等にご招待します。

法人会員 年会費 50,000円（一口以上）

《会員特典》一口で年に1回のワークショップの実施か、年に2回巡回展を実施します。

お問い合わせ

一般社団法人アーツアライブ（事務局）
〒170-0003 東京都豊島区駒込2-5-1-903

Tel/Fax: 03-5394-5070

E-mail: info@artsalivejp.org

特定寄付

特定のプロジェクトに対する寄付です。

内容、期間、プロジェクト実施の対象は随時ウェブサイト上でお知らせします。

現在、募集中の特定寄付については
[<http://www.artsalivejp.org>] をご覧ください。
関連のプログラムに関して、貴方様のお名前を記載させていただき、ご協賛されたイベント等にご招待いたします。

アーティスト および ボランティア

アーツアライブの活動に協力して下さる作家とボランティアを募集しています。

会費 および 寄付のお振込先

一般社団法人 Arts Alive 代表理事 林 容子
三菱東京UFJ銀行 駒込支店 0045955



aa

アートで生き生き

arts alive

一般社団法人 アーツアライブ

Photo: Mao Hisatsuka, Makoto Onozuka, Logo design: CD-Takashi Fukui, AD&D-Akira Shikiya, Editorial design, Ayumi Sato

<http://www.artsalivejp.org>

アートで生き生き **arts alive aa**
一般社団法人 アーツアライブ

アートの力が医療と福祉の現場を変えていく

アーツ（美術、音楽、ダンスなど）の力を通してすべての人に日常では味わえない新たな感動を届け、創造する喜びと生きる活力を得てもらうこと、つまり人と社会を元気づけ、「ALIVE 生き生きさせる！」ことを目的にしています。

管理され、価値観が画一的になりがちな社会において、表現者個々の多様な世界観や価値観を含有するアートは、時に私たちが考える常識、当たり前のことを覆し、新しい発見、気づき、驚き、喜び、自己肯定、そして自己の成長をもたらします。

すべての人が、死を迎える瞬間まで尊厳を持って人間らしく生きていくために、自分らしく生きていくためにアートは無くしてはならないものと私たちは考えます。

しかし、日本においてアートはすべての人々の生活の一部になっているとは言えません。特に、介護を必要とする高齢者、難病で入退院を繰り返す子供と親、虐待等の理由から施設で暮らす子供たち、生きる目的を失いがちな若年性の認知症など、自力では日ごろアートに接する機会がほとんど無い人々に対して、現場のニーズを見極め、それを考慮したサイトスペシフィックな特注のプログラムを企画、提供することで、彼らの生活と人生に刺激、変化、そして何より喜びを創出します。

このようにアーツアライブは、アートをもっとも必要としながら、自力で体験することが難しい福祉の現場に、豊かな創造性と企画力を持つアーティストとそれらの活動を支援するサポーターをつなげ、福祉の現場を変えることで社会全体の生活の質(QOL)を向上させることを目指しています。



◀ チェルシー・ウェストミンスター
病院内のアート作品

1999年5月
「Itai Doshi」/ David Gagginni

▶ Dr. パッチ・アダムス

医者、道化師。アメリカの医療を変革する社会活動家。笑い、喜び、創造性が治療の根本的な一部でなければならないと主張。

HP: <http://www.patchadams.org/>



イギリスでの出会い アーツアライブの原点

1999年5月、国際会議に参加した際、英国の病院や施設を視察。そこは地域の人々に開放されており、数々のワークショップやパフォーマンスが行われていた。沢山のアート作品にあふれ、まるで美術館のようだった。そして、あまりに異なる日本の医療福祉の現状、現場に衝撃を受けた。

その時に会った Dr.パッチ・アダムス(*左写真)は、「一人一人の患者に最大限の関心と思いやりを持って良き友となること」の大切さを教えてくれた。

帰国後の夏、富士市の特別養護老人ホームでプロジェクトを開始し、2009年一般社団法人化した。

arts alive

一般社団法人 アーツアライブ

aa



代表理事 林 容子

国際基督教大学、デューク大学で美術史を学んだ後、アメリカ・コロンビア大学大学院に進み芸術運営修士号を日本人として始めて取得。その後ニューヨーク近代美術館(MoMA)のアートアドバイザー部で企業コレクションの収集、巡回企画展などを担当。帰国後、国内外の多数の企画展、パブリックアートなどをプロデュースする。現在、尚美学園大学大学院准教授、武蔵野美術大学ほか非常勤講師、複数の自治体の文化振興委員などを兼務。

理事 猪瀬和子 <(株)日放エンタープライズ代表取締役、臨床心理カウンセラー>
霧生トシ子 <ピアニスト、尚美学園大学客員教授>
顧問 今道友信 <美学者、国際美学研究所所長>
草刈隆郎 <日本郵船株式会社相談役>
監事 小野秀雄 <税理士>

もっとアートを身近に。もっと日常にアートを。 アーツアライブが提供するプログラム

1 アート制作ワークショップ

体験者の希望、生活スタイル、身体的条件等を考慮して、絵画、彫刻、ダンス等多様なジャンルの個別のプログラムをご提案し、協議の上実施。



「遊べるクッション」
日向野豊・小玉洋子(2001年8月)

作家が50余りの多様な形のクッションにスナップがランダムについたものを制作し、デイサービスに通う高齢者がそこに自由に絵を描いたものを近くの幼稚園にプレゼント。作品を通して高齢者が地域にお返りする機会を創出した。

3 巡回企画展

作家がアーツアライブのために登録している作品からなるテーマ別企画展を、登録する施設に巡回します。

作品が展示されると、建物の雰囲気は一変します。

5 コンサート・パフォーマンス

時に歌詞カードを配り、患者も一緒に歌ったり、手をたたいたりする参加型の多様なコンサートやパフォーマンスの企画、実施。

毎年夏の花火大会の日に熱海の高齢者施設で開催されるピアノコンサートを、入居されているお年寄りは心待ちにし、年々、ピアノに合わせて歌う声も大きくなっています。



「霧生トシ子&太田寛ピアノデュオコンサート」(2010年2月)

沢山のひとと共に、医療福祉現場でのアートの持つ可能性に挑戦しています。

アーツアライブは、東京都を活動拠点として、上記プログラムを展開しています。

これまでに全国の自治体、社会福祉協議会、医療法人、小学校、児童館、美術館を含む多くの機関、そして約300名のアーティストや美大生と協働し、プログラムを作り上げています。

参加・協力の人数は約3000人を超え、活動領域も拡大中です。(2010年12月現在)



「小市亮二ワークショップ」(2009年11月)

2 認知症の方のためのアート鑑賞ガイド

NY近代美術館(MoMA)が実施しているプログラムに基づく、認知症とその家族のための対話型の鑑賞プログラム。

これまでにプログラムを体験された若年性認知症の男性は、「これが生きる張り合いになります」と言うほどプログラムに見せられています。また、プログラムをガイドするエドゥケーター養成にも力を注いでいます。

4 壁画制作

施設の建設時あるいは、修繕時に壁画を製作します。

冬の間雪が5メートルも積もり、日の光すら入ってこない新潟県津南町の特別養護老人ホームの食堂の壁3面に、その土地の彼らの子供時代の様子を描いた壁画を描きました。



「特別養護老人ホーム壁画制作」
武蔵野美術大学学生有志(2001年2月)

色鮮やかな壁画のところで食べたいと多くのお年寄りが車椅子を押して、食堂まで来てくれるようになったのは、嬉しいこと。

6 アートと医療福祉に関する研究、講演会、出版

内外の最先端の事例研究調査、関連の講演会、シンポジウム、出版。

「進化するアートコミュニケーション—ヘルスケアの現場に介入するアーティストたち」
レイライン出版: 2006/11
林容子(著)、湖山泰成(著)

これまでの主な協力組織

- 社会福祉法人 カメリア会
- 社会福祉法人 東京聖労会
- 社会福祉法人 扶助者聖母会
- 熱海市立伊豆山小学校
- 東京都北療育医療センター 通園部
- 医療法人社団 湖聖会
- 医療法人社団 龍岡会
- 北区社会福祉協議会
- 熱海市立桃山小学校
- プリヂストン美術館 他多数